

令和6年度 事業報告

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

社会福祉法人 入野福祉会

特別養護老人ホーム 大仙園

ケアハウス 大仙

令和6年度 特別養護老人ホーム大仙園 事業報告

総括

今年度の入所者状況としては、昨年度の稼働率の低下を踏まえ 95%以上の運営を目指してまいりましたが、年度末には 12 床の空床となり稼働率の実績は平均 93%にとどまりました。短期入所生活介護(ショートステイ)の利用もなく、地域における高齢者福祉の拠点施設としての重要な役割を担っているという意識が薄く地域住民、各関係機関との連携不足の結果であると反省しています。

新規加算の取得としては、科学的介護推進体制加算、排泄支援加算を算定しました。これは、介護の質の向上のために国が推進しているもので、入所者の様々なデータを厚生労働省内に送信し、集められた全国のデータが分析され施設にフィードバックされます。(PDCA サイクル)介護はスタッフの主観や経験だけで成り立つ傾向があり、サービスの質に差が出てしまいます。ケアの統一を図るためにこのシステムを活用し、関わるスタッフが同じ認識を持ちケアを展開することでケアの質の向上につなげていきます。

感染症の発生状況では、インフルエンザ、新型コロナ感染の感染症等の発生があり、中でも疥癬(カイセン)は長期間の対応となりました。

最終的に、インフルエンザ感染は5名、新型コロナ感染は16 名、疥癬(カイセン)は15名、それに準じる治療者は19 名となり数ヶ月間蔓延予防策を講じていました。感染症の罹患は防ぎきれない場合が多いのですが、感染症の影響を最小限にとどめるよう感染対策を引き続き継続します。

人材確保に関しては、人材派遣、人材紹介、ハローワークなどから 24 件の紹介があり 13 名入職され昼間の人手不足が解消されています。今後は、職員の自主性を高め、専門性を喚起するよう促し介護の質的向上に努めます。

また、生産性向上を目的に介護テクノロジー支援事業補助金を活用し排泄センサーを導入しました。これは、排泄物を感知する介護機器です。排泄ケアに係る無駄な時間を省き、尿路感染症や皮膚トラブルなど入所者の健康維持に着視し導入しました。機器を効果的に活用し尿路感染症等の疾病を予防するとともに、職員が働きやすい介護現場になるよう取り組みます。

<施設理念>

「笑顔のありがとうをいただける笑顔のあたりまえ」を基本理念とし、入所者とそのご家族の皆様から笑顔をいただけるよう「思いやりのこころ」で支援いたします。

<基本方針>

1. 当園に求められる役割を果たすため、空床期間の短縮を図る。
2. 入所者のニーズの充足に応え生活の質の向上を目指す。
3. 人材育成に取り組み、職員の知識、技術の向上及び業務の改善に努める。
4. 地域との連携を強化し、入所者はもとより地域における福祉の充実に貢献する。
5. 感染症や自然災害が発生した場合であっても、介護サービスが安定的・継続的に介護サービスを提供する。

<重点目標>

1. 入所者のサービス向上に努める。
 - ・施設理念に基づき、入所者が自分らしく笑顔で生活することを支援します。
 - ・介護を中心に多職種が連携し、入所者が安全で安心して過ごせる生活を提供する。
 - ・入所者の個別性の理解を深めるとともに、個々に応じた目的のあるケアを実践する。
 - ・入所者の身体的・精神的状態を把握し、協力病院と連携し疾病予防に努める。
 - ・入所者の終末期ケアを充実し、ご家族にも感謝される「看取り介護」に取り組む。
 - ・感染症予防対策の知識、技術の向上を図り感染症対策を実践する。
2. 人材育成に励む
 - ・各種委員会や研修会に積極的に参加し、専門性のある知識の習得や技術の向上に努める。
 - ・中堅社員の育成と組織体制の強化を図る。
 - ・統制のとれた組織運営を目指し、組織力とチーム力の向上を目指す。
3. 地域連携、医療連携を充実する
 - ・地域の施設及び病院などとの連携を強化し、地域の期待に応えられる施設を目指す。
 - ・地域のニーズに応える施設であるために、地域交流の拡大と地域福祉の充実に貢献する。
 - ・病院、事業所との連絡を定期的に行い待機者を増やす。
4. 感染症や自然災害の発生時においても、介護サービスを継続する
 - ・自然災害、感染症、防災計画(BPC)を基本対応とし、事業継続を実践する。

< 部門別事業報告 >

◆ 介護サービス部門計画（従来型）

1. 入所者が穏やかに季節感を感じて過ごしていただけるよう行事内容の工夫を行う。
2. 入所者が快適に過ごすことができるよう、身体の衛生面や環境に注視し生活環境の保持に努める。
3. 職員全員が連携を図り、報告、連絡、相談を密にし、入所者にとって最良と思われる支援を行う。
4. 職員の、リスクマネジメントの意識向上を図るための知識の習得や技術の向上への意識を高め、入所者が安全で安心した生活を送っていただく。
5. 入所者との関わりを深め、問題意識、共通認識を持ち改善に取り組むことで、入所者の視点に添う統一した個別的支援を提供する。
6. 感染症を未然に防ぐ為、標準予防策(スタンダードプリコーション)を徹底して、感染源遮断や拡大防止に重点を置き感染症発生時の対応に備える。
7. 利用者・家族との十分な話し合いを深め、入所者本人、家族の意思決定を基本とし、人生の最終段階におけるケアを進め、看取り介護を充実させる。

< 行動目標 >

- ① 生活空間に季節を感じていただける工夫を行い季節感を得られる行事を行う。
- ② 日常を楽しく穏やかに過ごしていただけるよう、レクリエーションを取り入れ、職員が積極的に入所者との関りを持つ。
- ③ 入浴、衣類の交換、排泄用品の交換を適切に行い身体を衛生的に保つ。また居室の整理整頓も行い居室空間の環境も整える。
- ④ 朝礼、申し送りの中で、職員間の情報共有、報告・相談・連絡をする。
- ⑤ 介護目標達成のための個人目標を挙げ、達成度が8割以上になるよう努力する。
- ⑥ 毎週事故・ヒヤリハットカンファレンスを行い、多職種が連携し、早期に原因の分析と対策を行うことで、骨折等の重大な事故の発生を防ぐ。
- ⑦ 感染症の罹患、蔓延をさせないために、普段から感染予防行動を心掛け入所者への感染を防ぐ。3ヵ月毎の委員会、年2回以上の研修会での学びを実践し感染を未然に防ぐ。
- ⑧ 入所者自らの意思を把握し、寄り添う看取りケアを行うことで、家族が良かったと満足していただける看取り介護を行う。

< 従来型入所者の主な診断名 >

(単位:人)

尿路感染症	32
誤嚥性肺炎(ごえんせいはいえん)	3
蜂窩織炎(ほうかしきえん)	3
褥瘡(床ずれ)	5
新型コロナ感染症	16
疥癬(かいせん)	9

【報告】

入所者に穏やかな楽しみのある日常生活を送ってもらう取り組みにおいて、ホールや廊下に飾り付けをし、四季を感じていただける工夫をした。夏祭りも行い、ゲームや日頃のメニューにない物を食べていただき喜んでもらった。

事故に関しては、大きな事故発生はなく経過したが、感染症に関して新型コロナ感染と疥癬(カイセン)が発生し長期に入所者の方にご迷惑をかけてしまったことを深く反省した。また、尿路感染症の診断を受けた入所者が32名おられ、これに対しても早急にケアの見直しをすべきだ。また、褥瘡(床ずれ)が重度になり治癒しない状況で死亡された方もいた。新規で排泄感知センサーを導入しているためこの機能を活用し、尿路感染症の予防に努めるとともに褥瘡(床ずれ)の予防に繋ぐことができるよう取り組んで行く。

◆ 介護サービス部門計画（ユニット型）

1. 入所者様にとって、その人らしい日々の生活を送ってもらえるように、本人の意向を尊重し個別ケアを実践していく。
2. 定期的に感染症対策の講習を行い有事に備え、感染症を未然に防ぐ為、標準予防策を徹底し、感染源の進入防止に重点を置き、感染発生時には感染拡大を防止する為の対策を実施していく。
3. 報告、連絡、相談を徹底し、いきいきとした働きやすい職場作りを行う為に職員同士のコミュニケーションを重要視し、職員の質を向上していく。
業務支援ソフトウェアを活用し、業務管理の一元化を行うことで、事務作業の効率向上を図る。
4. 入所者様の心身の状態に合わせ負担の掛からないような介護を行い安全な環境作りを推進し事故防止に努終の棲家として最期の時まで安寧に過ごしてもらえるよう入居者様に寄り添う支援を行なっていく。カンファレンスを6カ月毎に行い、適切なサービスを構築していく。また終末期等、状態に変化があれば随時行っていく。

< 行動目標 >

- ① 入所者様一人ひとりの個性や生活リズムに応じて暮らしていけるようサポートする。
- ② 感染症を蔓延させない為に、普段から入居者様の状態を観察し、異常がないのかの確認をする。また、3ヵ月毎の委員会、年2回の研修会で学習を行適切な処置の仕方を学んでいく。
- ③ ユニットケアの理念を職員全員が理解できるように年1回、研修会にて講習を行い知識向上に努める。また、外国人技能実習生や新入社員、経験の浅い職員に対して個別に指導していく。
- ④ 入所者様に関わる情報を客観的に把握し職員全員で共有を図り、一律に実践していく。また他職種との連携を強化し、それぞれの専門性を活かし、よりよいケアに努める。業務支援ソフトウェアを使用し、業務の効率化を図ることにより入所者との触れ合う時間を増やしていく。
- ⑤ ヒヤリハット、事故報告書を活用し原因対策を迅速に考え実践し、重大事故0、骨折 0を目指す。また危険予知トレーニングを定期的に行い、危機管理を養っていく。

< ユニット型入居者の主な診断名 > (単位:人)

尿路感染症	16
誤嚥性肺炎(ごえんせいはいえん)	4
蜂窩織炎(ほうかしきえん)	3
褥瘡(床ずれ)	2
インフルエンザ	5
疥癬(かいせん)	5

【報告】

職員同士で情報を共有し個別対応が出来るように努めているが、状況により業務を優先してしまうことがあったため、ユニットケアの特徴である個別支援の充実を目指して行く。感染症予防対策に対しては、インフルエンザ、疥癬（カイセン）が発生し入居者の方には多大な迷惑を掛けしてしまった。今回の事例を教訓として速やかに対策を講じていく。また、尿路感染症や誤嚥性肺炎の診断を受けた入居者が多く、排泄ケア、食事介助などのケアの見直しをすべきである。

事故発生に関しては、安全面の配慮を重視し入居者の生活状況を把握、状態に合わせセンサーマットの使用や巡回の強化等を行い支援していく。

【ADL(日常生活動作)状況】

従来型

項目	介護度合	人数
食事	自立	23
	一部介助	6
	全介助	13
食形態	常食	9
	刻み食	20
	ミキサー食	8
	経管栄養	5
入浴	一搬浴	20
	機械浴	22
移動方法	独歩(見守り)	1
	歩行器	0
	車椅子	32
	リクライニング車椅子	9
排泄	布パンツ	1
	紙パンツ	24
	紙オムツ	17
	排泄センサー使用者	15

ユニット型

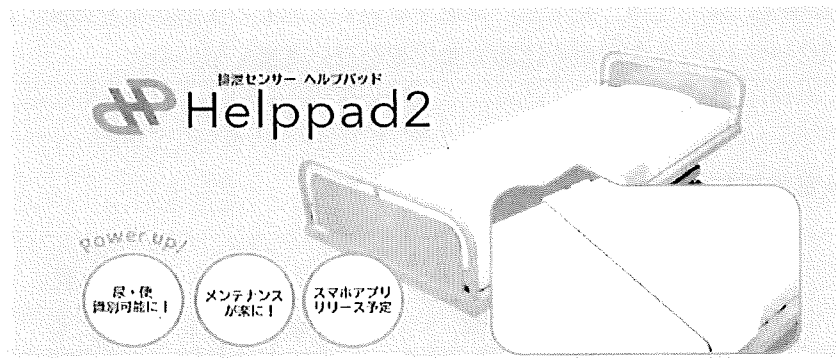
項目	介護度合	人数
食事	自立	15
	一部介助	12
	全介助	9
食形態	常食	11
	刻み食	15
	ミキサー食	10
	経管栄養	0
入浴	一搬浴	21
	機械浴	15
移動方法	独歩	1
	歩行器	2
	車椅子	33
	リクライニング車椅子	5
排泄	布パンツ	0
	紙パンツ	20
	紙オムツ	16
	排泄センサー使用者	15

【転倒予防センサーマット使用状況】

(単位:人)

	従来型	ユニット型
床式センサーマット	4	6
マットレス式センサーマット	5	5

<排泄感知センサー導入>



◎オムツを開けずにセンサーが排泄の「におい」「湿度」「温度」に反応して、AIが便と尿をそれぞれ判定して分けて検知し知らせてくれる。

◎データ履歴を可視化し、入所者個々の排泄パターンが把握でき予測の排泄ケアが可能になる。

入所者の感染症予防、職員の負担軽減を目的に昨年より排泄センサーを導入した。

必要なタイミングでのおむつ交換が可能となり、尿路感染症や皮膚トラブルの予防、入所者の睡眠ケアや羞恥心に配慮し、職員の排泄ケアの業務負担軽減にもつながるなどの優れた機能となっている。

常時オムツを使用される場合や夜間のみオムツを使用される場合が対象となり、施設では30名の入所者に使用している。

◆ 看護部門計画

1. 入所者が安定した生活が維持できるよう感染予防の知識、技術を介護職員に浸透させ感染症の発生を予防する
2. 入所者の日々の健康状態の観察を行い、変化が見られた時には早期の対応をすることで病状の悪化を予防し、入院者を減少させる。
3. 介護職員が安心、安全な医療的ケアが実践できるよう医療的ケアマネジメント能力の維持をサポートする。
4. 看取り介護において看取り同意から最期の時まで、多職種協働で利用者とその家族が良かったと思えるような関わりを持つ。

< 行動目標 >

- ① 感染予防の研修会を2回/年開催し、介護職員と共に各種感染症対策のノウハウや発生時の対応を行い感染の発生、拡大を防ぐ。
- ② 日々入所者のバイタルサインの測定、食事量・水分量・排泄状況・体重変化を観察し、アセスメントのもと委託医との連絡調整を行ない早期の治療に繋げる。
- ③ 医療的ケア(痰吸引・経管栄養入所者の管理、内服薬介助時の注意点)の研修会を行い医行為による事故を起こさない。
- ④ 入所者とその家族の意向を尊重し、医師からの看取り介護の説明と同意のもとに看取り介護支援を行う。

【報告】

今年度は感染症(インフルエンザ・新型コロナ・疥癬(カイセン))の発生が多く、対応に追われてしまった。反省としては、疥癬(カイセン)が初めての職員が殆どであり、予防方法の違いを周知しきれなかった。また、尿路感染に関しては、48名が診断を受け治療対象となってしまったことは次年度の課題となる。介護職員と協力し予防に努める。入院者に関しては、入院者数は33名と前年度に比べ4名減少したが、入院日数は186日延びており長期の入院になっています。安定した生活を送っていただけるよう、看護師間での情報共有を重視し早期対応を心掛け、入院者数を減らし一日でも長く園での生活ができるよう支援します。

◆ 機能訓練部門計画

1. 作業療法士(株式会社ツぐハグ)の協力により、レクレーションを取り入れた機能訓練を実施し、「楽しみながら行う機能訓練」を目標に、残された活動能力が維持できるようアプローチする。
2. 他部門との協働のもとで、生活リハビリを重視して、自立支援を目指した訓練計画内容を実践する。
3. 理学療法機器(マイクロ波・ウォーターマッサー等)を活用し入所者の心身のリラックス効果を図る。
4. コミュニケーションロボット「パルロ」を使用し、体操、会話、歌等を一諸に行い認知症ケアにも携わる。

< 行動目標 >

- ① 外部の作業療法士より個別訓練方法を教わり、関節可動域訓練、ゲーム感覚での機能維持やコミュニケーションロボットを活用した体操を取り入れ、楽しみを感じながら身体機能、認知機能の維持向上を図る。
- ② 入所者個々の活動を把握し、個別のアプローチ方法を実践し自立支援につなげる。

- ③ 計画的に理学療法を実施し、関節の拘縮予防に努め、関節、筋肉がリラックスできるように日々訓練を実施する。

【報告】

3回/週外部の作業療法士、理学療法士と協力しながら体操をしたり訓練をしたりと機能維持・向上に努めた。入所者の皆さんは専門士の来園を心待ちにしており、活気ある生活を送っている。また、コミュニケーションロボットも活用し、クイズや歌で楽しんでいる。

専門職の視点で関わり、訓練士は様々なアドバイスを受けながら訓練を実践することで多くの入所者の機能低下が予防できている。今後も楽しく身体を動かしてもらうよう努める。

◆ 栄養 サービス部門計画

1. 行事食の実施や旬の食材を使用し、季節を感じていただける献立を提案し、入所者の皆様に喜んで食べていただける食事の提供を行う。
2. 食中毒を発生させないよう、委託業者と協力し衛生管理の徹底を図る。
3. ご家族と連携し、低栄養状態の方を抽出し、低栄養状態が予防できるよう、個別の栄養マネジメント計画を立案し、食事形態や食事量、栄養補助食品等の検討を行うことで、栄養状態の改善に努める。

< 行動目標 >

- ① 入所者の食べたい料理や食材を傾聴し献立に反映させる。
毎月旬の食材をあげ、新しい料理も献立内に組み込む。また食べやすい食材の切り方・大きさ・調理方法で提供する。
- ② 厨房の清掃状況・衛生状態を把握し、委託業者に注意喚起・指導を行う。
衛生点検帳簿類の確認を行い、実際に清掃が実行されているか現場の確認をする。
- ③ 給食会議での指摘事項は日清職員とのミーティングにて伝達してもらい情報共有を図る。
- ④ 年に数回大掃除を実施して普段清掃できない場所の清掃を行う。
- ⑤ ミールラウンド(喫食状況確認)で入所者の食事量や食事状況の把握を行い、栄養ケアマネジメントに反映させる。
- ⑥ 栄養ケアマネジメントで低栄養の方を抽出し、多職種と連携して食事量、食事形態の変更や栄養補助食品の提供等の検討を行う。
- ⑦ カンファレンスに出席し、多職種の意見や情報を収集し、栄養マネジメントに反映する。

【報告】

行事食は昨年実施した中で好評なものは残しつつ新しい献立を少しずつ取り入れ、変化のある食事の提供ができた。

掃除や毎月ある衛生点検など都度声をかけながら確認した。

納品後速やかに収納できるよう協力した。

確認・連携が不十分であったところもあり、褥瘡悪化等起こってしまったので、今後は現在の状態より密に連携を取れるようにしていく。

◆ 生活相談サービス部門計画

1. 入所者の個々の心身状態や家族関係の情報を限なく収集することで、必要且つ最善と思われる相談援助を提供できるように務め、入所後にその状況や状態に応じた適切なサービスを提供していくことで、自主自立の援助とそれに伴う環境整備を重視して、ご利用者様及びご家族様に対して満足した生活を送っていただけるように務める。
2. 入所者の確保に関して、個々のケースにおける状況を詳らかに把握できるように務めて、滞りのない入所待機者の確保に務める。また、毎月の継続した入所判定会議を効率・効果を深慮しながら開催し、多職種による協議の上で、有意義で有効的なサービスの提供が実現できるように取り組んでいく。
3. 大仙園の担う社会的な機能とその役割について、地域住民や各関係機関へより一層理解をしていただくように務めて、要介護高齢者に関する相談窓口として、最優先で選択をしていただき、またその要望に対して真摯に向き合い、様々なニーズに柔軟に対応できるように精進する。

< 行動目標 >

- ① 個々の入所希望に係る案件に対して、ご本人様及びご家族様としっかり面談するとともに、対象者の関与する各関係機関へも情報収集の範囲を拡充し、蓄積された情報をもとにして、個々の状態に最適と思われる施設サービス計画書の作成と、実際のサービス提供に係る遂行の状況について確認を行う。
- ② 入所希望者の絶対的な減少している状況に関して、真摯に向き合い様々なニーズのある対象者に対して、間口を大きく構えることで、各関係機関との連携による情報収集を迅速且つ丁寧に行い、永劫的な施設入所への需要とサービスの供給が均衡を保つことができるように務める。
- ③ 社会福祉法人としての社会的理念を基軸として、特別養護老人ホームの機能を最大限に活かすことを念頭に置いて、地域住民や各関係機関への周知を継続し、地域社会での高齢者福祉に関する支援の一翼を担えるように勤しむ。

【報告】

入所申込のあった対象者に対して、施設所定の様式に加えて、医療機関や福祉関係等の関係機関からの情報収集を行いそれをもとに実際に面談にも行くことで、全体像の把握に注力したが、詳細な対象者の心身状態や今までの生活歴を含めた環境や性格的なもの、或いはご家族との関係性についてまでは、十分に把握ができない部分もあった。特に今後は医療面での対応が多く必要な対象者に関しては、面談時に看護師と同行することで、より専門性の高い情報を得られるようにすることも必要になってくると思われる。

医療機関から退院時に直接施設入所になるケースが増加してきており、入所者本人が心身ともに落ち着いていない場合が多々見られる。また、ご家族としても医療機関へ退院を迫られて施設の機能や役割をあまり理解されていない状況で拙速な入所となる場合もあるため、入所者のご家族ともに十分に理解を得た上で納得をして入所をしていただくことで、相互に信頼できる関係性の構築を図っていきたい。

◆ ケアマネジメント部門計画

1. 利用開始時及び定期的なカンファレンスの開催によって、多職種からの専門的な視点で心身の状態や個別のニーズを把握し、個々に必要なサービスの提供と継続的な効果の検証ができるように、包括的な調整に努める。
2. 日々の心身状態の変化に注視して、その時々に必要な支援をアセスメントを行うことで抽出し、専門職の意見と照合して適宜適時で介護サービス計画の作成と見直しを遂行し、不安と不満のない日々を送っていただけるように取り組む。
3. チームケアの理念を念頭に置き、利用者様への個々のスタッフの取り組みが各セクションの取り組みとなり、各セクションの取り組みが施設全体の取り組みとして、相乗的且つ効果的なものになるように、確認と調整を行い進捗状況についても随時掌握ができるように務める。
4. 介護サービス計画の作成において、可能な限りご本人様とご家族との面談する機会を設けることで、サービスの内容や施設の考え方を説明し承認を得ることで、相互に誤解や曲解の無い普遍的な関係性の構築に勤しむ。

< 行動目標 >

- ① 入所前から可能な限り対象者の情報についての把握に努め、専門職のフィルターを通すことで、対象者にとってもっとも相応しいと思われるサービス内容を抽出し、適宜提供が滞りなく可能となるように、意思確認や調整に努める。
- ② 入所者の心身機能の把握や状態の変化について、適宜情報を収集して各専門職からの意見を確認していくことで、その状況において最適且つ必要なサービスの提供の有無や可否について検証して、より自己実現がしやすい環境となるように善処する。

- ③ 多職種の意見が統合されて、一貫性のあるサービスの提供に繋げることができるように調整に努める。また、個々の目標に対しての達成率や方向性の正誤についても日々確認をして、効果的な取り組みが継続して行えるように努める。
- ④ 日々の入所者との向き合い方について、体調悪化や不慮の事故が生じた場合、ご家族との関係性が芳しくない状況となる場合があるため、サービス内容の本質的な意味・目的について、それに伴うリスクにも言及して理解を得る。

【報告】

施設サービス計画書(今後の方針)、アセスメント総括表、モニタリングシート 等を用いて、生活全般の解決すべき課題の評価を実施した。今後も日常的かつ継続的なプラン検討を多職種で協議し細かな点まで配慮が行き届くように努めたい。

◆ 事務部門計画

- 1. 部署内での情報共有、協力体制を重視し、事務業務の向上に努める。
- 2. 明るい事務所づくりを目指し接遇向上を目指す。
- 3. 職員の人材確保に努める。

< 行動目標 >

- ① IT 機器を有効活用し、業務の効率化を図り業務能力向上に努める。また園内の必要書類を再検討し、書類整理や管理体制を見直す。
- ② 施設の窓口として電話や受付業務、ご家族や外部施設などの来園時に親切丁寧な対応を心がける。
- ③ 部署内のコミュニケーションを密にし、他部署との連携の円滑化を目指す。
- ④ 前年度に引き続き職員募集を重視し、看護職員・介護職員等の人材確保に努める。 就職希望者の選択に資するようホームページ等により広報する。

【報告】

職員不足が慢性的になり、職員採用も困難な状況であったが、紹介会社、派遣会社からの紹介があり、今年度は24件の面接を行い、13名の入職があり(内2名退職)増員しているが、4名はパートタイムであるためフルタイムでの職員を増やす必要がある。

【人事状況】

入職者数

(単位:人)

紹介会社	派遣会社	ハローワーク	ホームページ	職員紹介
4	2	4	1	2

(単位:人)

職員区分	入職者	現職員数	備考
介護職	6	40	内派遣 2
看護職	2	8	
機能訓練士		1	
介護支援専門員		1	
相談員		1	
栄養士		1	
その他	2	6	宿直者含む

【研修会参加状況】

	研修日	研修テーマ	研修者
1	7月30日	リスクマネジメント講習	本田 浩二
2	7月7日	看護研修(感染対策・救急対応等)	川本 葵花
3	9月1日	看護研修(感染対策・救急対応等)	吉田 音々
4	7月29日	広島県福祉避難場所等確保・運営ガイドライン	伊藤 千恵
5	7月29日	広島県福祉避難場所等確保・運営ガイドライン	末田 典雅
6	7月29日	広島県福祉避難場所等確保・運営ガイドライン	古田 禅
7	7月29日	広島県福祉避難場所等確保・運営ガイドライン	小西 孝典
8	7月24日	生産性向上普及促進セミナー	伊藤 千恵
9	8月7日	主任・係長講座	本田 浩二
10	9/28~10/2	インドネシア訪問	伊藤 千恵
11	9/28~10/2	インドネシア訪問	本田 浩二
12	5月9日	LIFE研修(科学的介護情報システム)	伊藤 千恵
13	5月9日	LIFE研修(科学的介護情報システム)	高田るり子
14	5月9日	LIFE研修(科学的介護情報システム)	川口 智子
15	10月22日	介護職の働きやすい職場環境って?	伊藤 千恵
16	10月22日	介護職の働きやすい職場環境って?	小西 孝典
17	10月22日	介護職の働きやすい職場環境って?	古田 禅

18	11月6日	東広島ブロック研修会参加	伊藤 千恵
19	11月7日	東広島ブロック研修会参加	野村 亮二
20	11月7日	ノロウイルス食中毒予防講習会	今谷 恵
21	11月25日	ヘルプパット実践研修	職員全員
22	12月4日	ヘルプパット研修（排泄センサー）	職員全員
23	1月15日	ヘルプパット研修（排泄センサー）	職員2名
24	2月12日	ヘルプパット研修（排泄センサー）	職員3名
25	3月12日	ヘルプパット研修（排泄センサー）	職員3名
26	3月21日	介護サービス事業者集団指導研修	伊藤 千恵
27	3月21日	介護サービス事業者集団指導研修	川口 智子

【研修会報告】

専門的知識や技術の向上を図るため、職場内研修の開催や外部研修へ参加した。職場内研修が中心であったが、5項目は外部研修に参加し、他の参加者との交流も持てた。施設内計画研修は、感染症発生時には参加者が少なくなったが、予定通り行い学びを深めた。

【指導監査】

R6.12.5 特別養護老人ホーム 運営指導

広島県健康福祉局 医療介護基盤課 3名

R6.12.12 短期入所生活介護運営指導

広島県西部東厚生環境事務所・保健所

厚生課 厚生推進係 2名

R7.2, 19 外国人技能実習機構 実地検査

外国人技能実習機構 広島事務所 指導課 実習適正化指導員 1名

【運営指導監査報告】

○特養の運営指導では・・・運営規定内に虐待防止指針を明記する。

感染症蔓延防止指針の作成。

○短期入所生活介護運営・・・短期入所生活介護（ショートステイ）の運営規定を細かく明記する。

○外国人技能実習機構・・・計画的有給休暇の取得状況がわかりやすくなるようにシート等を活用し実習性に適切に有給取得してもらう。

指導内容は上記の内容であり大きな指摘はなく、すでに改善し提出済み。

【運営会議関連】

日 時	内 容
4月	運営会議:介護報酬改定について。新年度の計画確認。従来型の機械浴槽が新しくなっている。庭園散策について。訪問美容の予定。人事異動について。外国人技能実習性について。 入所検討会:88歳男性 要介護5 八本松病院より紹介
5月	運営会議:訪問美容の予定。6月のボランティア来園について。6月避難訓練について。6月からの介護報酬の改定について。 入所検討会:77歳男性 要介護3 老健 葵の園東広島より紹介 73歳女性 要介護4 老健 葵の園東広島より紹介
6月	運営会議:訪問美容の予定。7月の七夕の会の綿菓子大会について。加算算定、科学的介護情報システム(新LIFE)について。人事について。役職の心構え、役割について。組織運営の在り方について。 入所検討会:74歳男性 要介護4 安田病院より紹介 90歳男性 要介護4 安田病院、より紹介 78歳男性 要介護4 井野口病院より紹介 75歳女性 要介護4 本永病院より紹介 95歳女性 要介護3 老健 葵の園 世羅
7月	運営会議:訪問美容の予定。8月の追弔法要、夏祭りの予定について。AEDの納品に合わせて使用方法の研修あり。 入所検討会:87歳女性 要介護5 馬場病院より紹介 98歳男性 要介護3 馬場病院より紹介
8月	運営会議:訪問美容の予定。感染症発生に対する意識を高める取り組み。夏祭りの課題協議、9月の敬老会について。リーダーの自覚と報連相の重要性を念頭に統制のとれた運営を行う。 入所検討会:74歳女性 要介護3 井野口病院より紹介 88歳男性 要介護3 在宅より
9月	運営会:訪問美容の予定。骨折などの重大事故に対しての検討。インドネシアへの出張(2名)。目的を持ち他国の特色を学び、実習生の教育に役立てる。
10月	運営会議:訪問美容の予定。11月交流会の予定(べっぴんじゃけん)。疥癬(かいせん)発生についての対応策確認。入所者の健康を保ち楽しみながらたべていただくゼリーを提供する。 入所検討会:90歳男性 要介護5 小規模多機能より紹介
11月	運営会議:訪問美容の予定。業務時間、入所者の感染症、皮膚トラブル予防のために「ヘルプパット」排泄センサーを導入。使用方法の学習。BCPの改善策と次回の避難訓練は役職者が中心となる。12月のクリスマス会、餅つき大会

【月別稼働状況】

平均稼働状況 93%

(単位: %)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
従来型	92	90	93	94	92	94	97	95	99	95	89	90
ユニット型	96	96	99	97	95	98	98	92	87	86	87	87

【平均要介護度】

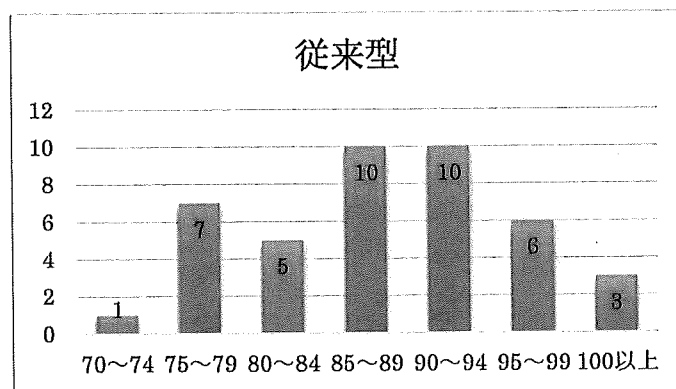
従来型

ユニット型

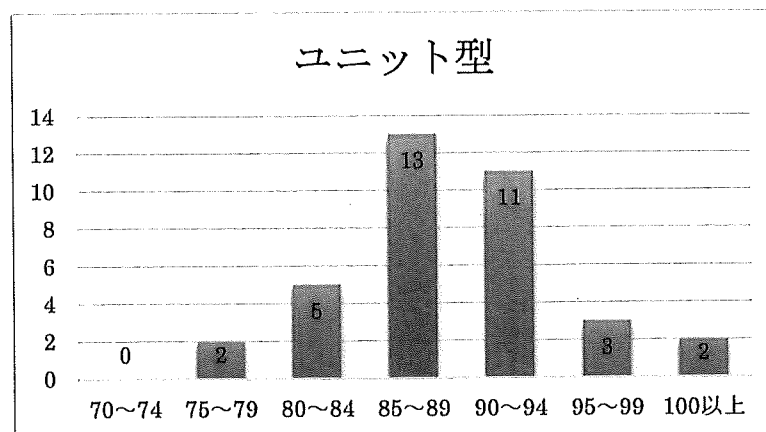
男 性	3.7	男 性	3.8
女 性	4.1	女 性	4.1

【年齢別入所者数】

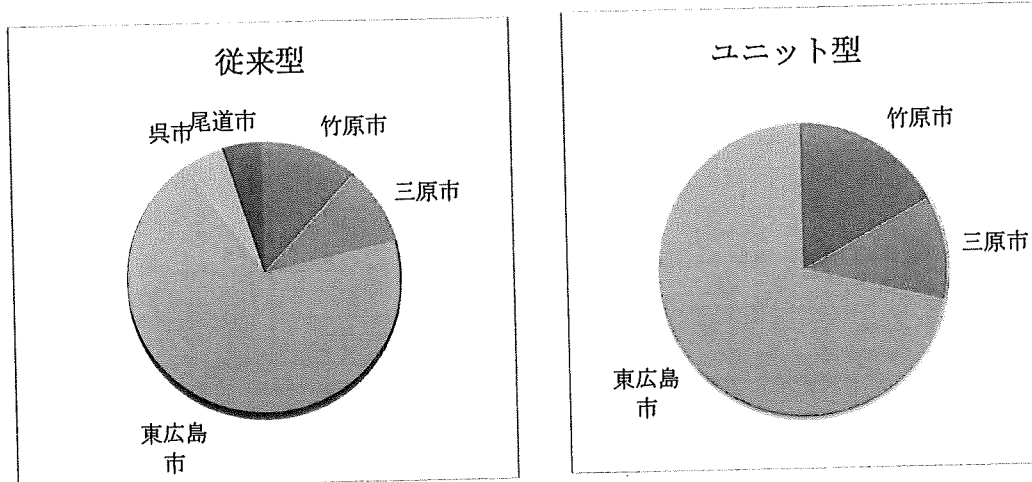
(単位: 人)



(単位: 人)



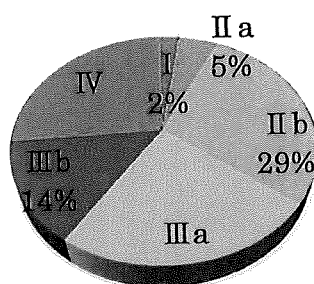
【区域別入所者】



【認知症自立度】

(単位:人)

介助状態	自立	要見守り		要介護		全般的に要介護
日常生活自立度	I	II a	II b	III a	III b	IV
従来型	1	2	12	10	6	11
ユニット型	0	5	10	5	7	9
合 計	1	7	22	15	13	20



【面会状況】

<従来型>

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延人数	31	43	46	35	31	39	28	40	61	16	32	40

<ユニット型>

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延人数	20	38	40	49	37	38	30	46	38	17	36	38

【外出状況】

＜従来型＞

(単位:人)

日 時	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延人数	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0

＜ユニット型＞

(単位:人)

日 時	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延人数	3	1	2	4	1	2	3	2	5	2	5	3

【定期受診延べ数状況(定期健診)】

(単位:人)

馬場病院	209
馬場病院 神経内科	62

入所者の皆様は6ヶ月に1度は受診をされている。

【受診(診察)延べ数状況】

(単位:人)

外科	6
内科	55
整形外科	8
皮膚科	4
泌尿器科	5
耳鼻科	2
眼科	8
心療内科	1
合 計	89

【受診延べ数状況と主な病名 】

(単位:人)

尿路感染症	48
轔嚥性肺炎(ごえんせいはいえん)	12
蜂窩織炎(ほうかしきえん)	6
褥瘡(床ずれ)	7
その他	16

【往診延べ数状況】

(単位:人)

内科	1045
整形外科	931
精神科	660
皮膚科	420
歯科	8642

【病名別入院延べ数状況】

入院者数:33 名

入院日数:929 日

(単位:人)

病 名	人 数	病 名	
肺 炎	10	骨 折	2
尿 路 感 染	4	胃 ろ う 造 設	2
腎 孟 腎 炎	3	胆 嚢 炎	3
脳 梗 塞	3	その他	5
貧 血	1	合 計	33

【感染者状況】

(単位:人)

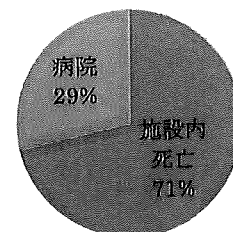
	従来型	ユニット型
インフルエンザ感染	0	5
新型コロナ感染	16	0
疥癬(カイセン)	10	5

【死亡者数】

(単位:人)

	施設内死亡	病院内死亡
従来型	8 (看取り介護)	3
ユニット型	6 (看取り介護)	4

■施設内死亡 ■病院



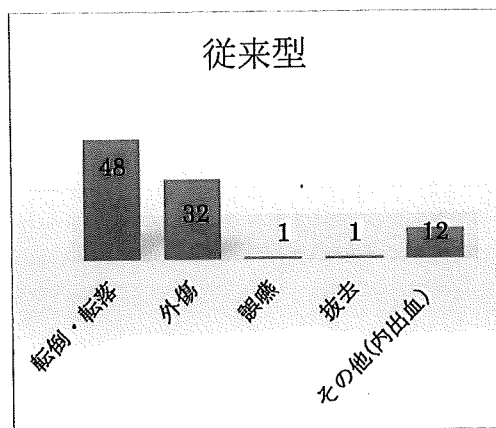
【死亡者死因】

(単位:人)

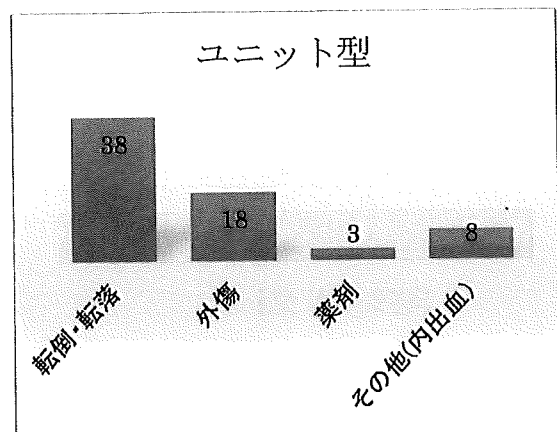
死亡診断名	人数
老衰	5
肺炎	3
認知症	2
パーキンソン病	2
心不全	3
脳梗塞	3
その他	3

【ヒヤリハット・事故状況】

単位:件



単位:件



【委員会報告】

各種委員会は3ヶ月毎にそれぞれテーマや議題を揚げ開催しました。

委員会名	委員会内容
感染予防対策委員会	感染予防の基本的知識、食中毒予防について
安全対策、事故防止委員会	事故、ヒヤリハット件数報告と事故検証、対策について
身体拘束適正化委員会	身体拘束の身体的影響と心理的負担について
虐待防止委員会	虐待の種類の確認と虐待が起こらない職場環境づくり
医療的ケア安全委員会	吸引処置時の注意点、服薬管理
褥瘡(床ずれ)対策委員会	褥瘡を創らないポジショニング
給食委員会	給食簿の意見、対応策の協議と行事食等予定検討
入所判定会議(毎月)	入所申し込み者の検討会
排泄検討会(毎月)	利用者毎の排泄用品や介助時間等の検討

【地域交流】

○地域包括センター

認知症講義実施

○施設訪問(令和7年2月28日)

東広島市社会福祉協議会 河内支所主催

訪問者:23名

施設内を見学され施設沿革、特養の特徴について説明



【ボランティア来園状況】

(単位:人)

ボランティア名	人数
簗太鼓保存会	10
べっぴんじゃけん	4
個人(餅つき大会)	1

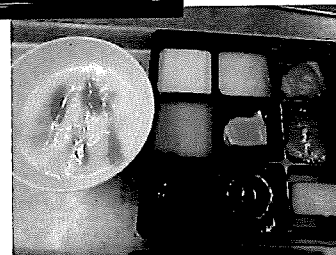
【主な行事の様子】

《お花見》

常食



ミキサー食



《交流会》



「べっぴんじゃけん」のボランティアの皆様が来園されました

《夏祭り》



職員の色々なゲーム、風船釣りや射的で楽しんでいただき、出店では職員の手作りのかき氷、ベビーカステラ、チョコバナナたこ焼き等好きなものを食べていただきました。

《敬老会》



箏太鼓保存会の皆様に演奏していただきました

《クリスマス会》



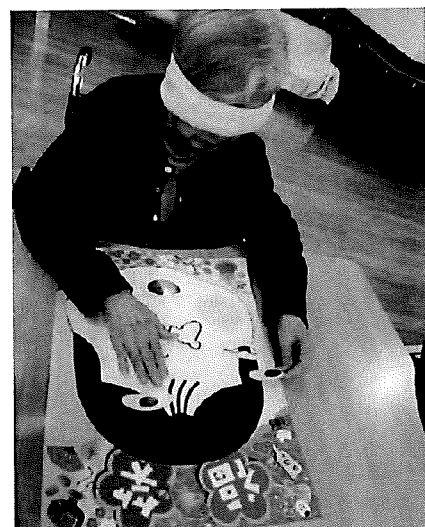
《餅つき大会》



《お正月》

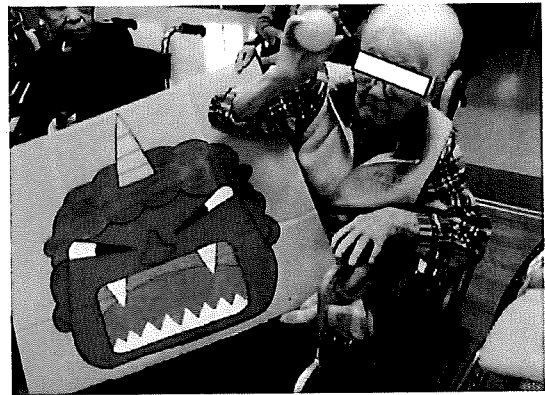


『書き初め』



『福笑い』

《節分》



〔豆まきで鬼退治〕

《雛祭り》



ひな祭りの会にボーリング大会をして楽しんでいただきました

〔外国人技能実習生 4期生 4名入職式〕



令和6年度 特別養護老人ホーム大仙園・ユニット型大仙園 年間行事

行事の目的

1. 時節の催しを行うことで利用者の皆さまに季節感を味わって頂く、充実した施設での生活を過ごして頂く。
2. 行事を通じて家族や地域の方々との交流を図り、利用者の皆さまが楽しく施設での生活を過ごして頂く

月	行事	行事内容	その他
4月	庭園散策 誕生日会	園内の桜やつばきを鑑賞していただき、昼食にはお花見弁当を提供する。(4/1)	端午の節句 鯉のぼり飾りを行う 園より発行
5月	庭園散策 誕生日会	園内のバラや紫陽花、新緑のすみじを鑑賞して楽しんでいただく。	端午の節句 役員会 貯水槽清掃消毒作業
6月	交流会 誕生日会	ボランティアの方を招き、皆様に余興を楽しんでいただく。	消防用設備等定期点検 避難訓練 水質検査(27項目) 職員腰推検査 夜勤業務者健康診断
7月	七夕祭りの会 誕生日会	願い事を短冊に書き、短冊を笹に飾り付ける。(7/7)	七夕の節句 笹の飾りつけ 園より発行
8月	追弔法要 誕生日会	これまで施設をご利用頂いた皆さまを思い、利用者の皆さまにはお盆の供養が出来るように支援する。(従来型のみ実施)	
9月	敬老会 敬老の日にお弁当提供	高齢者の方々に敬意を持って長寿をお祝する会を開催し、記念品贈呈と、お弁当を提供する。(盛大な披露会)	水質検査(51項目) ワックス作業
10月	庭園散策 秋のメニュー提供 誕生日会	紅葉の時期に、秋の山々の移り変わりを観て秋を感じていただく。 秋らしさを感じるメニューの提供	ストレスチェック実施 園より発行
11月	交流会 誕生日会	ボランティアの方を招き、皆様に余興を楽しんでいただく。(ボランティア ペーぴんじやけん)	インフルエンザ・新型コロナウイルス予防接種(利用者・職員) 防災訓練(夜間想定) 職員健診
12月	クリスマス会 餅つき 誕生日会	クリスマスの曲を利用者と一緒に歌ったり、サンタクロースがプレゼントを配る。(12/21) 門松を舞台に飾る。 一年の締めくくりと正月準備のため、広間にて餅つきを披露する。(12/27) お餅に代わるおやつを召し上がっていただく。	消防用設備等定期点検 水質検査(27項目) 正月の準備(門松割り 12月22・23日) 職員腰推検査
1月	新年を祝う会 誕生日会	書初め、福笑い、お神酒を配る	園より発行
2月	節分の会 誕生日会	今年一年の無病息災を願い、豆まきをすることで季節を感じて頂く。	ひな壇飾り 事業計画(案)作成
3月	ひな祭りの会 お彼岸 誕生日会	ひな人形を利用者に鑑賞していただきながら、ひな祭りにまつわる話を語る。 ペットボトルでのボーリング お彼岸の日にはおはぎを提供する。	事業報告まとめ(各委員会データ、部門別) 役員会 検査(27項目) ワックス作業 水質

その他行事

- ・お誕生日のお祝い(毎月)
- ・入所者の皆さまの誕生日月に、職員と入居者の皆さまとお誕生を祝い会を開催します。
- ・入所者の皆様に誕生日プレゼントをお渡しし喜んでいただく。

各種委員会

- ・感染予防対策委員会(3ヵ月/毎)
- ・安全委員会・事故防止検討委員会(3ヵ月/毎)
- ・身体的拘束等適正化委員会(3ヵ月/毎)
- ・虐待防止委員会(3ヶ月/毎)
- ・医療的ケア安全委員会(3ヵ月/毎)

各種会議

- ・特養運営会議(毎月)
- ・給食会議(毎月)
- ・特養入所会議(毎月)
- ・職員研修会(毎月)

施設内清掃

清掃作業(不ニビルサービスクラス掛け) 2回/年

※感染症発生時には計画を中止することがあります。

令和6年度 特別養護老人ホーム大仙園 従来型・ユニット型職員研修会

職員研修の目標

1. 介護の知識・技術を習得し、介護人材としての質的向上を目指す。
2. 感染症対策・安全配慮・認知症ケア等について重点的に知識・技術を高める。

月	研修項目	研修内容	担当者
4月	【①事故防止】 介護リスクマネジメント 事故防止に対する意識を高める為の取り組み (KYT)	・ヒヤリ・ハット、事故の報告をし、事故防止を最大限に予防するための対策を実践する。 ・事故、ヒヤリハットのカンファレンスが役立っているか？を検討し事故防止に繋げる。	橋本(和)
5月	【①感染対策・標準予防策と感染経路別予防策の手順 感染症対応のシミュレーション、PEBの実践	・感染予防策の知識を取得し、注意喚起することで利用者、職員の感染予防に努める。 ・感染の発症を想定しシミュレーションをし、利用者への適切なサービス提供を行う。	小西副主任
6月	【②感染対策】 ・食中毒の予防について ・各種感染症について	・食中毒の予防法を学ぶ。(ウイルス、細菌を持ち込まない、広げない、増やさない) ・コロナ・インフルエンザ、ノロウイルス、白癬菌・疥癬等	野村副主任
7月	【②事故防止】 医療的ケアリスクマネジメント 急変時の対応について(心肺蘇生・AED)	・緊急時マニュアルに沿って実践する。 ・緊急時の職員の対応の確認をし、職員間での連携を実践する。	海付副主任 古田
8月	【安全衛生】 精神的ストレスの回避 受動喫煙 腰痛体操	・職場内でのストレスをためない方法 ・受動喫煙の影響について学ぶ ・腰痛を予防する方法	本田主任
9月	【①身体拘束適正化・虐待防止】 ①口腔ケアの注意点	・何故身体拘束をするのか何故虐待をするのか？介護者の心理的変化の理解を学ぶ。 ・開口の困難の方、口腔内の乾燥が強い方のケアの実践を学ぶ。	新澤
10月	【②身体拘束適正化・虐待防止】 身体拘束・虐待が起らない職場環境づくり	・自身が知らないうちに虐待行為をしているかもしれない？虐待防止法を理解し、虐待が起らない環境づくりをする。	湊
11月	【褥瘡対策】 褥瘡を発生させないためのポジショニングの重要性	・耐圧分散マットの選択方法を理解し、予防策を実行する事で褥瘡予防法を学ぶ。 ・両上下肢、首の拘縮を予防するポジショニング	海付副主任
12月	認知症ケアについて 認知症の原因、症状、関わり方	・認知症の基本知識について学ぶ。国を挙げての認知症に対する取り組みを理解する。 ・認知症の方への関わり方について実践的な学習を行う。	高田主任
1月	BCPの運用や防災計画等について 施設内、自治体、地域との連携をするには？	・自然災害、感染症の蔓延時に利用者の生活を守るための事業継続計画を理解する。	伊藤
2月	【看取り介護】介護職員が中心となる終末期の利用者との関わり方	・看取り介護が増加する中で、当施設が目指す看取り介護について学ぶ。	伊藤
3月	プライバイシーの保護についての知識と実践 ②口腔ケアの重要性	・プライバイシーの保護を重要視した排泄援助や入浴、行為の方法を習得する。 ・口腔ケアを継続し、肺炎等様々な疾患の予防になることの重要性について学ぶ。	榎

※研修会発表者は起案書を作成し、報告書を7日以内に提出する。

※研修会発表者は参考資料を担当者に手渡し内容確認をしてもらう。